

令和2年度 園内研究まとめ

「考える幼児を育むための教師の援助と環境の構成を探る」



江東区立ひばり幼稚園

【主題設定理由】

今年度は本園の教育目標である「かんがえるこ」に重点を置き研究を進めることになり、「かんがえるこ」とはどのような幼児であるかを話し合った。そうしたところ「自分で考え、試行錯誤して遊ぶ幼児、試したり工夫したりして追究する幼児」という目指す幼児像が出てきた。

考える幼児を育むためには、やはり遊びの充実を図ることが大切であると考え、好きな遊びにおいての教師の援助や環境の構成について見直していくことにした。そこで、研究のテーマを「考える幼児を育むための教師の援助と環境の構成を探る」とした。

【研究の方法】

- 遊びのエピソード事例を持ち寄り、事例検討を行った。遊びから幼児の発達や育ちを丁寧に読みとり、教師の援助の工夫や環境の構成について協議し、情報を共有した。
- 11月、12月に有明教育短期大学 准教授の信太朋子先生を講師としてお招きし、研究保育を実施した。研究保育や協議会を通して、教師の援助の方法や遊びの環境の構成についてご指導していただいた。
- 就学前教育スタンダードを活用して、幼児の姿を捉えられるようにした。

☆事例検討の流れ

- ① 記録を基に遊びの様子をエピソード事例としてまとめていきました。

⇒幼児の気持ちを考えたり、実態を把握したりしています。就学前教育スタンダードも活用しました。



- ②エピソード事例を基に教師間で、援助の方法や環境の構成について話し合いを行いました。

⇒教師の援助の意図や、幼児の育ちも見えてきました。



- ③翌日の保育で実践していきました。

⇒幼児の実態に合わせて、環境を構成したり、見守ったり、仲介したりと様々な援助を工夫しています。



- ④保護者の方とも共有できるようにしました。



☆①から④を繰り返し行うことで、理解を深めることができました。

【研究を通して分かったこと】

・考える幼児を育むために大切にしたいこと

教師

幼児の発達や実態を把握し、遊びや活動の選択をする

多様な遊びが経験できるようにし、遊びに応じた場や時間、物を保障する

大人が幼児を理解しようとする。



幼児の考えを受容する。周りに知らせる

学級の友達と遊びを共有したり、共に進めたりできるようにする

幼児

楽しかった！！
もっとやりたい！
～心動かす体験～

やってみようかな！
～様々なものとの出会い～
(4歳児)

安心して自分を出すこと。



なんでだろう？
こうなるかな？
～予測や探求～

それいいね！今度はこうしてみようかな！
～友達のを認める
考えの幅を広げる～
(5歳児)

【研究の成果】

<教師の変容>

- ・目指す幼児像を意識して保育を行ったり、保育記録を書いたりするようになった。
- ・幼児の実態を把握できたことで、発達や実態に応じた遊びの援助を行えるようになった。
- ・教師も幼児と同じ視線で物を見たり、考えたりしながら保育を行うことで、考えを深める機会を大切にするようになった。
- ・幼児の思考力の芽生えの場面が、たくさん見えるようになり、認めることが増えた。
- ・幼児と共に考えることを楽しむようになった。

<幼児の変容>

- ・じっくり試行錯誤して遊ぶ幼児の姿が見られるようになった。
- ・考えることが楽しいと感じる幼児の姿が見られるようになった。
- ・以前の体験を思い出し、生かしながら、さらに追究して遊ぼうとする姿が見られるようになった。
- ・学級の中で自分の考えを言葉にしたり、相手の考えを聞いたりして、活動に参加することを楽しむようになった。

【今後の展望】

今後も幼児理解を深め、幼児の実態や発達に合った遊びの提案や援助を行い、さらに幼児が深い学びをできるようにしていく。幼児が主体的に環境に関わり、考えを巡らせている場面を、周りの大人が見逃さないようにし、幼児に寄り添いながら共に学びを深められるようにしていきたい。